



2007年  
4月号

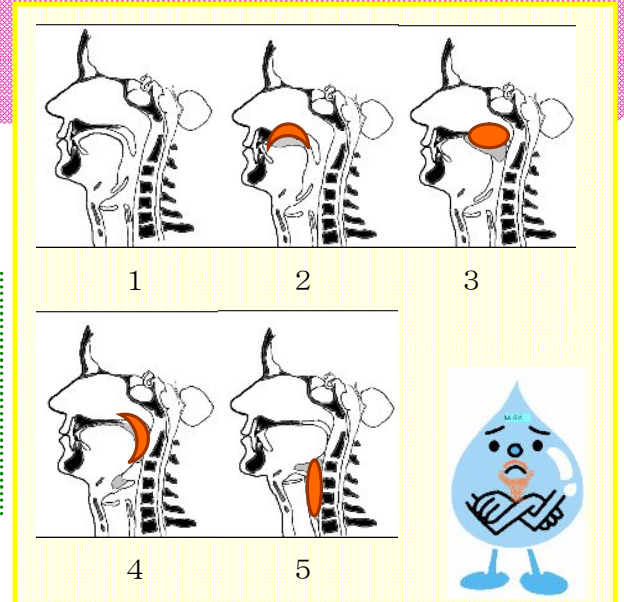
# マックシールプレス

目次

p1. 医療アラカルト リハビリ科  
p2. 部署紹介 MQM部 醫質管理部  
入院の患者様へ 看護部

## 医療アラカルト リハビリ科 嚥下造影検査を ご存知ですか？

宇都山 欣也先生



### VFG(嚥下造影検査) ご存知ですか

ものを食べるということとは、どういうことなのでしょう。普段何気なくしていることでも大変複雑な働きが調和を持って動かなければうまくいきません。

嚥下造影検査とは、X線を遮る造影剤、胃透視に使うバリウムを食品の中に混ぜた検査食をX線テレビ装置で撮影しながら飲んだり、食べたりしていただき、安全に食べられるかを調べる検査です。

ここにミカンがあるとします。食べてごっくんするまでを順に追っていきましょう。

1. **認知** まずはミカンの認知がうまくできていないといけません。食べられるものか、食べられないものかを区別できる能力が必要です。
2. 次に皮をむき適量を口に入れる。一噛みしてみても、おかしなものだったらはき出せなくてははいけません。
3. **咀嚼(ツヤク)** のどを通る適当な大きさに噛み砕く必要があります。丸呑みは窒息のおそれがあります。(上の2番目の図)
4. **咽頭前期** 噛み砕いたミカンはのどの奥まで舌の動きで送り込まれます。(上の3番目の図)
5. **頭挙上期** 気管は咽頭を先頭に、舌の下にせり上がります。これは皮膚の外からのどぼとけが動いて

いることで確認できます。のどの奥の狭いところに、咽頭があがる訳ですから食物は食道に押し込まれようとする圧力が高まります。

(下の5番目)

6. **咽頭下降期** のどの奥の食物は食道に送り込まれ、のどの位置は最小に戻ります。

(上の1番目の図)

1~6の些細な不都合が嚥下障害を起こし、肺炎の原因や栄養障害の原因となります。

### 《 訓練方法の一例 》

- ・ 患者様へのアプローチ  
間接嚥下訓練、直接嚥下訓練、防御の強化(咳、排痰訓練)
- ・ 食事、環境へのアプローチ  
調理方法(噛み砕きやすさ、味、のどごし)、食事介助(一回量を、ペースを守る)、姿勢(背中への起き具合、首の曲げ具合)

異今宮病院で実施しております。ご要望があれば、お尋ねください。

# 部署紹介

## MQM 部 醫質管理部 副主任 申務 真紀



MQM 部は組織上<sup>いしつ</sup>醫質管理部と名称が変更になりました。

MQM とは Medical Quality Management の省略です。日本語で「<sup>いしつ</sup>醫質管理」と呼びます。「醫」は医の旧漢字遣いです。成り立ちを調べると、「医は矢を納める蔵、爰は人を打ち殺す武器、酉は酒。医に爰を並べると一説に病人のうめき声といわれ、それに酒を持って処するは癒しの原点となる。それが長じて医療となったと解され醫と医は全く違う」と書き記されていました。

本部署は平成14年に部長の原が着任時に新設され、巽病院長と共にこのような思いを込めて名付けた部署だと聞いています。同じくして Risk Management「危機管理」が全国的に各病院で実施されつつありました。当院では、本来重視されるべき患者の権利、医療者の義務つまり Safety Management「安全管理」への考え方を主とし、大きく捉えて Quality Management「質管理」としてスタートしています。

醫質管理部は Safety Management の院内での立ち上げを皮切りに、健全経営への一端として医療材料を中心とした物流を担当しています。これらは日々の行われる医療の中で欠かせない物であり、経営貢献と共に安定供給を保つ事が重要です。良質物品の安価購入だけでなく医療者の利便性を考慮した業者交渉は欠かせません。医療経済が悪化する中、1円でも多くの利益を得る為には支出を抑える努力も大事な役割です。旧来「用度」と呼ばれていた部門です。当院ではデータ管理による、数的根拠に基づいたシステマティックな流通に取り組む為に、平成15年から SPD<sup>\*</sup>システムを導入しました。

SPD とはあまり聞き慣れないと思いますが、一般的には外部委託が主流で、導入や委託人件費等莫大な経費がかかります。当院では費用をかけず、独自に院内 SPD を立ち上げる事で少ない経費での運用が可能となりました。システムの大きな特徴として、使用した材料がレセプト請求と間違いがないなどをコンピューターで突合せられる事です。顧客秘書課と醫質管理部の間で細部に渡るチェックを行うことで、病院の労働対価を得ている現状です。

医療の質を高めていくためには、経営状態が悪ければ平行線で終わってしまいます。常に、データと向かい合っていかに活用していけるか・・・私たちのこれからも続く大きな課題です。このように、病院の裏方での仕事ですが、大事な役割を担っています。

醫質管理部という珍しい名の私たちの部署を是非知って頂ければ幸いです。

SPD<sup>\*</sup> : Supply Processing Distribution



## ●●● 入院の患者様へ 副看護部長 柳村由香里

医療法人マックシールの理念 (Medical Corporation of Saving Your Life)

をもとに、看護部では、目標の1つとして安全・安心・快適な療養生活の創造に取り組んでいます。ほとんどの個室には障子があり、無機質になりがちな病院環境の中で、少しでも「和」の雰囲気を感じていただければと思います。廊下の絵画も、一度足を止めてご覧になって見て下さい。今年度は、看護ケアの充実と療養環境の清掃強化に努めていきたいと考えております。

何かお気づきの点がございましたら、声をかけて下さい。また、入院して来られる患者様のほとんどが、救急車で搬送など急な入院の方で、ご本人もご家族の方も何かと不安が多いと思います。いつでも、相談して下さい。1日も早くよくなっていただくために、担当医・看護師はもとより病院職員一同、力を合わせて、お手伝いさせていただきます。